

運行管理者（貨物）問題集 - 道路運送車両法

資格ブートキャンプ用の学習PDFです。対象区分：共通 + 貨物。正解と解説は各問題の末尾に掲載しています。収録数：80問。

Q1 (ID 151) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の基本確認として、日常点検は運行前に車両状態を確認し、異常があれば運行させない判断につなげる。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路運送車両法の基本確認では、日常点検を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。日常点検は運行前に車両状態を確認し、異常があれば運行させない判断につなげる。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q2 (ID 152) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の基本確認として、定期点検整備について、車検証の有効期間を過ぎても短距離なら運行できる。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路運送車両法の基本確認では、定期点検整備を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。事業用自動車は定期点検整備を確実に実施し、点検整備記録簿で管理する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q3 (ID 154) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の基本確認として、保安基準について、車検証の有効期間を過ぎても短距離なら運行できる。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路運送車両法の基本確認では、保安基準を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。制動装置、灯火装置、タイヤなどは保安基準に適合した状態でなければならない。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q4 (ID 155) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の基本確認として、自動車検査証の有効期間を過ぎた車両は、原則として運行に使用できない。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路運送車両法の基本確認では、車検証と有効期間を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。自動車検査証の有効期間を過ぎた車両は、原則として運行に使用できない。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q5 (ID 157) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の基本確認として、タイヤの空気圧、溝の深さ、損傷は日常点検と定期点検の重要項目である。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路運送車両法の基本確認では、タイヤ管理を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。タイヤの空気圧、溝の深さ、損傷は日常点検と定期点検の重要項目である。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q6 (ID 159) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の基本確認として、運行中に重大な故障のおそれがある場合は、安全な場所に停止し、運行継続の可否を慎重に判断する。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路運送車両法の基本確認では、故障時の措置を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運行中に重大な故障のおそれがある場合は、安全な場所に停止し、運行継続の可否を慎重に判断する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q7 (ID 160) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の基本確認として、点検記録の保存について、車検証の有効期間を過ぎても短距離なら運行できる。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路運送車両法の基本確認では、点検記録の保存を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。点検整備記録は後日の確認や監査に備え、定められた方法で保存する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q8 (ID 162) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の記録管理として、定期点検整備について、日常点検で異常があっても定期点検日まで使用してよい。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路運送車両法の記録管理では、定期点検整備を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。事業用自動車は定期点検整備を確実に実施し、点検整備記録簿で管理する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q9 (ID 163) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の記録管理として、整備管理者は点検整備の実施計画、結果確認、車両使用可否の判断に関わる。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路運送車両法の記録管理では、整備管理者を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。整備管理者は点検整備の実施計画、結果確認、車両使用可否の判断に関わる。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q10 (ID 165) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の記録管理として、自動車検査証の有効期間を過ぎた車両は、原則として運行に使用できない。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路運送車両法の記録管理では、車検証と有効期間を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。自動車検査証の有効期間を過ぎた車両は、原則として運行に使用できない。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q11 (ID 167) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の記録管理として、タイヤの空気圧、溝の深さ、損傷は日常点検と定期点検の重要項目である。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路運送車両法の記録管理では、タイヤ管理を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。タイヤの空気圧、溝の深さ、損傷は日常点検と定期点検の重要項目である。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q12 (ID 168) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の記録管理として、非常口・消火器について、日常点検で異常があっても定期点検日まで使用してよい。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路運送車両法の記録管理では、非常口・消火器を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。旅客車両では非常口、消火器、車内表示などの設備が適切に使える状態であることを確認する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q13 (ID 170) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の記録管理として、点検記録の保存について、日常点検で異常があっても定期点検日まで使用してよい。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路運送車両法の記録管理では、点検記録の保存を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。点検整備記録は後日の確認や監査に備え、定められた方法で保存する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q14 (ID 171) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の事故防止として、日常点検は運行前に車両状態を確認し、異常があれば運行させない判断につなげる。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路運送車両法の事故防止では、日常点検を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。日常点検は運行前に車両状態を確認し、異常があれば運行させない判断につなげる。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q15 (ID 172) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の事故防止として、定期点検整備について、タイヤ損傷は走行できれば記録しなくてよい。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路運送車両法の事故防止では、定期点検整備を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。事業用自動車は定期点検整備を確実に実施し、点検整備記録簿で管理する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q16 (ID 173) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の事故防止として、整備管理者は点検整備の実施計画、結果確認、車両使用可否の判断に関わる。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路運送車両法の事故防止では、整備管理者を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。整備管理者は点検整備の実施計画、結果確認、車両使用可否の判断に関わる。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q17 (ID 175) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の事故防止として、自動車検査証の有効期間を過ぎた車両は、原則として運行に使用できない。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路運送車両法の事故防止では、車検証と有効期間を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。自動車検査証の有効期間を過ぎた車両は、原則として運行に使用できない。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q18 (ID 176) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の事故防止として、車両総重量について、タイヤ損傷は走行できれば記録しなくてよい。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路運送車両法の事故防止では、車両総重量を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。車両総重量は車両、乗員、最大積載量を含む重量で、積載管理や規制判断の基礎となる。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q19 (ID 178) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の事故防止として、非常口・消火器について、タイヤ損傷は走行できれば記録しなくてよい。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路運送車両法の事故防止では、非常口・消火器を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。旅客車両では非常口、消火器、車内表示などの設備が適切に使える状態であることを確認する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q20 (ID 180) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の事故防止として、点検記録の保存について、タイヤ損傷は走行できれば記録しなくてよい。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路運送車両法の事故防止では、点検記録の保存を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。点検整備記録は後日の確認や監査に備え、定められた方法で保存する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q21 (ID 181) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の監査対策として、日常点検は運行前に車両状態を確認し、異常があれば運行させない判断につなげる。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路運送車両法の監査対策では、日常点検を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。日常点検は運行前に車両状態を確認し、異常があれば運行させない判断につなげる。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q22 (ID 183) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の監査対策として、整備管理者は点検整備の実施計画、結果確認、車両使用可否の判断に関わる。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路運送車両法の監査対策では、整備管理者を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。整備管理者は点検整備の実施計画、結果確認、車両使用可否の判断に関わる。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q23 (ID 184) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の監査対策として、保安基準について、車検証の有効期間を過ぎても短距離なら運行できる。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路運送車両法の監査対策では、保安基準を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。制動装置、灯火装置、タイヤなどは保安基準に適合した状態でなければならない。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q24 (ID 186) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の監査対策として、車両総重量について、車検証の有効期間を過ぎても短距離なら運行できる。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路運送車両法の監査対策では、車両総重量を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。車両総重量は車両、乗員、最大積載量を含む重量で、積載管理や規制判断の基礎となる。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q25 (ID 188) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の監査対策として、非常口・消火器について、車検証の有効期間を過ぎても短距離なら運行できる。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路運送車両法の監査対策では、非常口・消火器を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。旅客車両では非常口、消火器、車内表示などの設備が適切に使える状態であることを確認する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q26 (ID 189) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の監査対策として、運行中に重大な故障のおそれがある場合は、安全な場所に停止し、運行継続の可否を慎重に判断する。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路運送車両法の監査対策では、故障時の措置を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運行中に重大な故障のおそれがある場合は、安全な場所に停止し、運行継続の可否を慎重に判断する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q27 (ID 191) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の乗務前確認として、日常点検は運行前に車両状態を確認し、異常があれば運行させない判断につなげる。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路運送車両法の乗務前確認では、日常点検を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。日常点検は運行前に車両状態を確認し、異常があれば運行させない判断につなげる。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q28 (ID 192) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の乗務前確認として、定期点検整備について、日常点検で異常があっても定期点検日まで使用してよい。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路運送車両法の乗務前確認では、定期点検整備を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。事業用自動車は定期点検整備を確実に実施し、点検整備記録簿で管理する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q29 (ID 193) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の乗務前確認として、整備管理者は点検整備の実施計画、結果確認、車両使用可否の判断に関わる。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路運送車両法の乗務前確認では、整備管理者を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。整備管理者は点検整備の実施計画、結果確認、車両使用可否の判断に関わる。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q30 (ID 194) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の乗務前確認として、保安基準について、日常点検で異常があっても定期点検日まで使用してよい。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路運送車両法の乗務前確認では、保安基準を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。制動装置、灯火装置、タイヤなどは保安基準に適合した状態でなければならない。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q31 (ID 196) [共通] ○×

次の記述は正しいか。共通の乗務前確認として、車両総重量について、日常点検で異常があっても定期点検日まで使用してよい。

選択肢：○ / ×

正解：×

解説：

道路運送車両法の乗務前確認では、車両総重量を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。車両総重量は車両、乗員、最大積載量を含む重量で、積載管理や規制判断の基礎となる。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q32 (ID 197) [貨物] ○×

次の記述は正しいか。貨物の乗務前確認として、タイヤの空気圧、溝の深さ、損傷は日常点検と定期点検の重要項目である。

選択肢：○ / ×

正解：○

解説：

道路運送車両法の乗務前確認では、タイヤ管理を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。タイヤの空気圧、溝の深さ、損傷は日常点検と定期点検の重要項目である。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q33 (ID 199) [共通] 四択

共通の乗務前確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(故障時の措置)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 運行中に重大な故障のおそれがある場合は、安全な場所に停止し、運行継続の可否を慎重に判断する。

正解：D

解説：

道路運送車両法の乗務前確認では、故障時の措置を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運行中に重大な故障のおそれがある場合は、安全な場所に停止し、運行継続の可否を慎重に判断する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q34 (ID 201) [共通] 四択

共通の乗務後確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(日常点検)

- A. 異常があっても予定を優先して運行する。
- B. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 日常点検は運行前に車両状態を確認し、異常があれば運行させない判断につなげる。

正解：D

解説：

道路運送車両法の乗務後確認では、日常点検を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。日常点検は運行前に車両状態を確認し、異常があれば運行させない判断につなげる。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q35 (ID 202) [貨物] 四択

貨物の乗務後確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(定期点検整備)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. 事業用自動車は定期点検整備を確実に実施し、点検整備記録簿で管理する。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 記録は口頭確認だけで足りる。

正解：B

解説：

道路運送車両法の乗務後確認では、定期点検整備を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。事業用自動車は定期点検整備を確実に実施し、点検整備記録簿で管理する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q36 (ID 204) [共通] 四択

共通の乗務後確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(保安基準)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 制動装置、灯火装置、タイヤなどは保安基準に適合した状態でなければならない。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。

正解：B

解説：

道路運送車両法の乗務後確認では、保安基準を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。制動装置、灯火装置、タイヤなどは保安基準に適合した状態でなければならない。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q37 (ID 205) [貨物] 四択

貨物の乗務後確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(車検証と有効期間)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 記録は口頭確認だけで足りる。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 自動車検査証の有効期間を過ぎた車両は、原則として運行に使用できない。

正解：D

解説：

道路運送車両法の乗務後確認では、車検証と有効期間を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。自動車検査証の有効期間を過ぎた車両は、原則として運行に使用できない。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q38 (ID 207) [貨物] 四択

貨物の乗務後確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(タイヤ管理)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. タイヤの空気圧、溝の深さ、損傷は日常点検と定期点検の重要項目である。

正解：D

解説：

道路運送車両法の乗務後確認では、タイヤ管理を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。タイヤの空気圧、溝の深さ、損傷は日常点検と定期点検の重要項目である。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q39 (ID 209) [共通] 四択

共通の乗務後確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(故障時の措置)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 運行中に重大な故障のおそれがある場合は、安全な場所に停止し、運行継続の可否を慎重に判断する。

正解：D

解説：

道路運送車両法の乗務後確認では、故障時の措置を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運行中に重大な故障のおそれがある場合は、安全な場所に停止し、運行継続の可否を慎重に判断する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q40 (ID 210) [貨物] 四択

貨物の乗務後確認に関する記述として、最も適切なものはどれか。(点検記録の保存)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 点検整備記録は後日の確認や監査に備え、定められた方法で保存する。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. 異常があっても予定を優先して運行する。

正解：B

解説：

道路運送車両法の乗務後確認では、点検記録の保存を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。点検整備記録は後日の確認や監査に備え、定められた方法で保存する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q41 (ID 212) [共通] 四択

共通の教育指導に関する記述として、最も適切なものはどれか。(定期点検整備)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. 事業用自動車は定期点検整備を確実に実施し、点検整備記録簿で管理する。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 記録は口頭確認だけで足りる。

正解：B

解説：

道路運送車両法の教育指導では、定期点検整備を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。事業用自動車は定期点検整備を確実に実施し、点検整備記録簿で管理する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q42 (ID 213) [貨物] 四択

貨物の教育指導に関する記述として、最も適切なものはどれか。(整備管理者)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 異常があっても予定を優先して運行する。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 整備管理者は点検整備の実施計画、結果確認、車両使用可否の判断に関わる。

正解：D

解説：

道路運送車両法の教育指導では、整備管理者を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。整備管理者は点検整備の実施計画、結果確認、車両使用可否の判断に関わる。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q43 (ID 214) [共通] 四択

共通の教育指導に関する記述として、最も適切なものはどれか。(保安基準)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 制動装置、灯火装置、タイヤなどは保安基準に適合した状態でなければならない。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。

正解：B

解説：

道路運送車両法の教育指導では、保安基準を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。制動装置、灯火装置、タイヤなどは保安基準に適合した状態でなければならない。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q44 (ID 215) [貨物] 四択

貨物の教育指導に関する記述として、最も適切なものはどれか。(車検証と有効期間)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 記録は口頭確認だけで足りる。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 自動車検査証の有効期間を過ぎた車両は、原則として運行に使用できない。

正解：D

解説：

道路運送車両法の教育指導では、車検証と有効期間を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。自動車検査証の有効期間を過ぎた車両は、原則として運行に使用できない。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q45 (ID 217) [共通] 四択

共通の教育指導に関する記述として、最も適切なものはどれか。(タイヤ管理)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. タイヤの空気圧、溝の深さ、損傷は日常点検と定期点検の重要項目である。

正解：D

解説：

道路運送車両法の教育指導では、タイヤ管理を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。タイヤの空気圧、溝の深さ、損傷は日常点検と定期点検の重要項目である。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q46 (ID 218) [貨物] 四択

貨物の教育指導に関する記述として、最も適切なものはどれか。(非常口・消火器)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 旅客車両では非常口、消火器、車内表示などの設備が適切に使える状態であることを確認する。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。

正解：B

解説：

道路運送車両法の教育指導では、非常口・消火器を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。旅客車両では非常口、消火器、車内表示などの設備が適切に使える状態であることを確認する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q47 (ID 220) [共通] 四択

共通の教育指導に関する記述として、最も適切なものはどれか。(点検記録の保存)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 点検整備記録は後日の確認や監査に備え、定められた方法で保存する。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. 異常があっても予定を優先して運行する。

正解：B

解説：

道路運送車両法の教育指導では、点検記録の保存を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。点検整備記録は後日の確認や監査に備え、定められた方法で保存する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q48 (ID 222) [共通] 四択

共通の異常時対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(定期点検整備)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. 事業用自動車は定期点検整備を確実に実施し、点検整備記録簿で管理する。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 記録は口頭確認だけで足りる。

正解：B

解説：

道路運送車両法の異常時対応では、定期点検整備を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。事業用自動車は定期点検整備を確実に実施し、点検整備記録簿で管理する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q49 (ID 223) [貨物] 四択

貨物の異常時対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(整備管理者)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 異常があっても予定を優先して運行する。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 整備管理者は点検整備の実施計画、結果確認、車両使用可否の判断に関わる。

正解：D

解説：

道路運送車両法の異常時対応では、整備管理者を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。整備管理者は点検整備の実施計画、結果確認、車両使用可否の判断に関わる。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q50 (ID 225) [共通] 四択

共通の異常時対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(車検証と有効期間)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 記録は口頭確認だけで足りる。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 自動車検査証の有効期間を過ぎた車両は、原則として運行に使用できない。

正解：D

解説：

道路運送車両法の異常時対応では、車検証と有効期間を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。自動車検査証の有効期間を過ぎた車両は、原則として運行に使用できない。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q51 (ID 226) [貨物] 四択

貨物の異常時対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(車両総重量)

- A. 異常があっても予定を優先して運行する。
- B. 車両総重量は車両、乗員、最大積載量を含む重量で、積載管理や規制判断の基礎となる。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。

正解：B

解説：

道路運送車両法の異常時対応では、車両総重量を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。車両総重量は車両、乗員、最大積載量を含む重量で、積載管理や規制判断の基礎となる。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q52 (ID 228) [貨物] 四択

貨物の異常時対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(非常口・消火器)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 旅客車両では非常口、消火器、車内表示などの設備が適切に使える状態であることを確認する。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。

正解：B

解説：

道路運送車両法の異常時対応では、非常口・消火器を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。旅客車両では非常口、消火器、車内表示などの設備が適切に使える状態であることを確認する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q53 (ID 230) [共通] 四択

共通の異常時対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(点検記録の保存)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 点検整備記録は後日の確認や監査に備え、定められた方法で保存する。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. 異常があっても予定を優先して運行する。

正解：B

解説：

道路運送車両法の異常時対応では、点検記録の保存を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。点検整備記録は後日の確認や監査に備え、定められた方法で保存する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q54 (ID 231) [貨物] 四択

貨物の行政処分防止に関する記述として、最も適切なものはどれか。(日常点検)

- A. 異常があっても予定を優先して運行する。
- B. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 日常点検は運行前に車両状態を確認し、異常があれば運行させない判断につなげる。

正解：D

解説：

道路運送車両法の行政処分防止では、日常点検を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。日常点検は運行前に車両状態を確認し、異常があれば運行させない判断につなげる。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q55 (ID 233) [共通] 四択

共通の行政処分防止に関する記述として、最も適切なものはどれか。(整備管理者)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 異常があっても予定を優先して運行する。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 整備管理者は点検整備の実施計画、結果確認、車両使用可否の判断に関わる。

正解：D

解説：

道路運送車両法の行政処分防止では、整備管理者を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。整備管理者は点検整備の実施計画、結果確認、車両使用可否の判断に関わる。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q56 (ID 234) [貨物] 四択

貨物の行政処分防止に関する記述として、最も適切なものはどれか。(保安基準)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 制動装置、灯火装置、タイヤなどは保安基準に適合した状態でなければならない。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。

正解：B

解説：

道路運送車両法の行政処分防止では、保安基準を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。制動装置、灯火装置、タイヤなどは保安基準に適合した状態でなければならない。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q57 (ID 235) [共通] 四択

共通の行政処分防止に関する記述として、最も適切なものはどれか。(車検証と有効期間)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 記録は口頭確認だけで足りる。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 自動車検査証の有効期間を過ぎた車両は、原則として運行に使用できない。

正解：D

解説：

道路運送車両法の行政処分防止では、車検証と有効期間を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。自動車検査証の有効期間を過ぎた車両は、原則として運行に使用できない。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q58 (ID 236) [貨物] 四択

貨物の行政処分防止に関する記述として、最も適切なものはどれか。(車両総重量)

- A. 異常があっても予定を優先して運行する。
- B. 車両総重量は車両、乗員、最大積載量を含む重量で、積載管理や規制判断の基礎となる。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。

正解：B

解説：

道路運送車両法の行政処分防止では、車両総重量を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。車両総重量は車両、乗員、最大積載量を含む重量で、積載管理や規制判断の基礎となる。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q59 (ID 238) [共通] 四択

共通の行政処分防止に関する記述として、最も適切なものはどれか。(非常口・消火器)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 旅客車両では非常口、消火器、車内表示などの設備が適切に使える状態であることを確認する。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。

正解：B

解説：

道路運送車両法の行政処分防止では、非常口・消火器を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。旅客車両では非常口、消火器、車内表示などの設備が適切に使える状態であることを確認する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q60 (ID 239) [貨物] 四択

貨物の行政処分防止に関する記述として、最も適切なものはどれか。(故障時の措置)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 運行中に重大な故障のおそれがある場合は、安全な場所に停止し、運行継続の可否を慎重に判断する。

正解：D

解説：

道路運送車両法の行政処分防止では、故障時の措置を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運行中に重大な故障のおそれがある場合は、安全な場所に停止し、運行継続の可否を慎重に判断する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q61 (ID 241) [共通] 四択

共通の安全方針に関する記述として、最も適切なものはどれか。(日常点検)

- A. 異常があっても予定を優先して運行する。
- B. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 日常点検は運行前に車両状態を確認し、異常があれば運行させない判断につなげる。

正解：D

解説：

道路運送車両法の安全方針では、日常点検を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。日常点検は運行前に車両状態を確認し、異常があれば運行させない判断につなげる。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q62 (ID 243) [共通] 四択

共通の安全方針に関する記述として、最も適切なものはどれか。(整備管理者)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 異常があっても予定を優先して運行する。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 整備管理者は点検整備の実施計画、結果確認、車両使用可否の判断に関わる。

正解：D

解説：

道路運送車両法の安全方針では、整備管理者を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。整備管理者は点検整備の実施計画、結果確認、車両使用可否の判断に関わる。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q63 (ID 244) [貨物] 四択

貨物の安全方針に関する記述として、最も適切なものはどれか。(保安基準)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 制動装置、灯火装置、タイヤなどは保安基準に適合した状態でなければならない。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。

正解：B

解説：

道路運送車両法の安全方針では、保安基準を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。制動装置、灯火装置、タイヤなどは保安基準に適合した状態でなければならない。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q64 (ID 246) [共通] 四択

共通の安全方針に関する記述として、最も適切なものはどれか。(車両総重量)

- A. 異常があっても予定を優先して運行する。
- B. 車両総重量は車両、乗員、最大積載量を含む重量で、積載管理や規制判断の基礎となる。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。

正解：B

解説：

道路運送車両法の安全方針では、車両総重量を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。車両総重量は車両、乗員、最大積載量を含む重量で、積載管理や規制判断の基礎となる。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q65 (ID 247) [貨物] 四択

貨物の安全方針に関する記述として、最も適切なものはどれか。(タイヤ管理)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. タイヤの空気圧、溝の深さ、損傷は日常点検と定期点検の重要項目である。

正解：D

解説：

道路運送車両法の安全方針では、タイヤ管理を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。タイヤの空気圧、溝の深さ、損傷は日常点検と定期点検の重要項目である。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q66 (ID 249) [貨物] 四択

貨物の安全方針に関する記述として、最も適切なものはどれか。(故障時の措置)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 運行中に重大な故障のおそれがある場合は、安全な場所に停止し、運行継続の可否を慎重に判断する。

正解：D

解説：

道路運送車両法の安全方針では、故障時の措置を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運行中に重大な故障のおそれがある場合は、安全な場所に停止し、運行継続の可否を慎重に判断する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q67 (ID 251) [共通] 四択

共通の新人教育に関する記述として、最も適切なものはどれか。(日常点検)

- A. 異常があっても予定を優先して運行する。
- B. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 日常点検は運行前に車両状態を確認し、異常があれば運行させない判断につなげる。

正解：D

解説：

道路運送車両法の新人教育では、日常点検を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。日常点検は運行前に車両状態を確認し、異常があれば運行させない判断につなげる。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q68 (ID 252) [貨物] 四択

貨物の新人教育に関する記述として、最も適切なものはどれか。(定期点検整備)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. 事業用自動車は定期点検整備を確実に実施し、点検整備記録簿で管理する。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 記録は口頭確認だけで足りる。

正解：B

解説：

道路運送車両法の新人教育では、定期点検整備を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。事業用自動車は定期点検整備を確実に実施し、点検整備記録簿で管理する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q69 (ID 254) [共通] 四択

共通の新人教育に関する記述として、最も適切なものはどれか。(保安基準)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 制動装置、灯火装置、タイヤなどは保安基準に適合した状態でなければならない。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。

正解：B

解説：

道路運送車両法の新人教育では、保安基準を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。制動装置、灯火装置、タイヤなどは保安基準に適合した状態でなければならない。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q70 (ID 255) [貨物] 四択

貨物の新人教育に関する記述として、最も適切なものはどれか。(車検証と有効期間)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 記録は口頭確認だけで足りる。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 自動車検査証の有効期間を過ぎた車両は、原則として運行に使用できない。

正解：D

解説：

道路運送車両法の新人教育では、車検証と有効期間を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。自動車検査証の有効期間を過ぎた車両は、原則として運行に使用できない。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q71 (ID 256) [共通] 四択

共通の新人教育に関する記述として、最も適切なものはどれか。(車両総重量)

- A. 異常があっても予定を優先して運行する。
- B. 車両総重量は車両、乗員、最大積載量を含む重量で、積載管理や規制判断の基礎となる。
- C. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- D. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。

正解：B

解説：

道路運送車両法の新人教育では、車両総重量を単独の知識で終わらせず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。車両総重量は車両、乗員、最大積載量を含む重量で、積載管理や規制判断の基礎となる。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q72 (ID 257) [貨物] 四択

貨物の新人教育に関する記述として、最も適切なものはどれか。(タイヤ管理)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. タイヤの空気圧、溝の深さ、損傷は日常点検と定期点検の重要項目である。

正解：D

解説：

道路運送車両法の新人教育では、タイヤ管理を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。タイヤの空気圧、溝の深さ、損傷は日常点検と定期点検の重要項目である。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q73 (ID 259) [共通] 四択

共通の新人教育に関する記述として、最も適切なものはどれか。(故障時の措置)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 運行中に重大な故障のおそれがある場合は、安全な場所に停止し、運行継続の可否を慎重に判断する。

正解：D

解説：

道路運送車両法の新人教育では、故障時の措置を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。運行中に重大な故障のおそれがある場合は、安全な場所に停止し、運行継続の可否を慎重に判断する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q74 (ID 260) [貨物] 四択

貨物の新人教育に関する記述として、最も適切なものはどれか。(点検記録の保存)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 点検整備記録は後日の確認や監査に備え、定められた方法で保存する。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. 異常があっても予定を優先して運行する。

正解：B

解説：

道路運送車両法の新人教育では、点検記録の保存を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。点検整備記録は後日の確認や監査に備え、定められた方法で保存する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q75 (ID 262) [共通] 四択

共通の繁忙期対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(定期点検整備)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. 事業用自動車は定期点検整備を確実に実施し、点検整備記録簿で管理する。
- C. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- D. 記録は口頭確認だけで足りる。

正解：B

解説：

道路運送車両法の繁忙期対応では、定期点検整備を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。事業用自動車は定期点検整備を確実に実施し、点検整備記録簿で管理する。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q76 (ID 264) [共通] 四択

共通の繁忙期対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(保安基準)

- A. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。
- B. 制動装置、灯火装置、タイヤなどは保安基準に適合した状態でなければならない。
- C. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- D. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。

正解：B

解説：

道路運送車両法の繁忙期対応では、保安基準を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。制動装置、灯火装置、タイヤなどは保安基準に適合した状態でなければならない。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q77 (ID 265) [貨物] 四択

貨物の繁忙期対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(車検証と有効期間)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 記録は口頭確認だけで足りる。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 自動車検査証の有効期間を過ぎた車両は、原則として運行に使用できない。

正解：D

解説：

道路運送車両法の繁忙期対応では、車検証と有効期間を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。自動車検査証の有効期間を過ぎた車両は、原則として運行に使用できない。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q78 (ID 267) [共通] 四択

共通の繁忙期対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(タイヤ管理)

- A. 安全確認は運転者個人だけに任せればよい。
- B. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. タイヤの空気圧、溝の深さ、損傷は日常点検と定期点検の重要項目である。

正解：D

解説：

道路運送車両法の繁忙期対応では、タイヤ管理を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。タイヤの空気圧、溝の深さ、損傷は日常点検と定期点検の重要項目である。共通区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q79 (ID 268) [貨物] 四択

貨物の繁忙期対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(非常口・消火器)

- A. 記録は口頭確認だけで足りる。
- B. 旅客車両では非常口、消火器、車内表示などの設備が適切に使える状態であることを確認する。
- C. 異常があっても予定を優先して運行する。
- D. 法令上の確認は繁忙期には省略できる。

正解：B

解説：

道路運送車両法の繁忙期対応では、非常口・消火器を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。旅客車両では非常口、消火器、車内表示などの設備が適切に使える状態であることを確認する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。

Q80 (ID 270) [貨物] 四択

貨物の繁忙期対応に関する記述として、最も適切なものはどれか。(点検記録の保存)

- A. 点検や教育は事故後だけ実施すればよい。
- B. 点検整備記録は後日の確認や監査に備え、定められた方法で保存する。
- C. 記録は口頭確認だけで足りる。
- D. 異常があっても予定を優先して運行する。

正解：B

解説：

道路運送車両法の繁忙期対応では、点検記録の保存を単独の知識で終わらず、点呼・記録・運行判断に結び付けて理解することが重要です。点検整備記録は後日の確認や監査に備え、定められた方法で保存する。貨物区分でも、安全確保を最優先に、異常時は運行を止める判断まで含めて確認します。